



2026 年 1 月 No.260
日本ボーイスカウト
福島連盟

福島市中町 5 番 18 号
福島県農林会館 1 階

発行責任者 理事長 夏井 宏
Tel (024)546-4155

福島連盟の2025年を振り返って

ボーイスカウト福島連盟 理事長 夏井 宏



スカウトの皆さん、日頃のスカウティングを楽しんでいますか。

育成会の皆さまにおかれましては、平素よりスカウトたちへの温かいご支援と本運動へのご理解、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

早いもので「新世紀」を迎えてから四半世紀が過ぎました。2025 年は、年明け早々に県青少年会館の閉館と、同敷地への県中央児童相談所の移転が発表され、本連盟は 46 年間慣れ親しんだ会館から事務局を移転することとなりました。県北各団をはじめ、県内各団指導者の皆さま、関係団体のご協力により、10 月から県林業会館において業務を開始することができました。改めて御礼申し上げます。

スカウトたちの活動においては、4 年前に新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった北海道・東北ブロックキャンボリーが、北海道会場および岩手県会場の2会場で同時開催されました。本県からは東北(岩手)会場に2こ隊を派遣し、スカウトたちは長距離移動の疲れも見せず、日々の生活や活動プログラムに意欲的に取り組みました。普段の隊活動では得難い貴重な経験と多くの仲間を得て、元気に帰福しています。

また、東北会場では、開催県連盟の負担軽減を目的に、運営の各部門を県連単位で担当する新たな方式が採用され、今後の大会運営に向けた重要な一歩となりました。本大会が今後も継続して開催されることを大いに期待しております。

2026 年夏には、広島県神石高原において第 19 回日本スカウトジャンボリーが開催されます。前回大会はコロナ禍により分散開催となりましたが、今回は8年ぶりに同一会場での開催となります。本県からは、派遣隊1こ隊に加え、大会運営スタッフおよび派遣団本部を含め、総勢約 50 名での参加を予定しております。

今後、派遣に向けた各種訓練が展開されますが、スカウトたちが安全に、そして実り多い経験をして帰福できるよう、各隊におけるご指導と温かい激励をお願いいたします。併せて、帯同される指導者の皆さまには、安心・安全な活動環境の確保に一層のご配慮をお願いいたします。

今後とも、青少年の健全育成のため、育成会の皆さまには変わらぬご支援を、指導者の皆さまには自己研鑽を重ねながら、スカウトたちへの温かい見守りと心のこもったご指導をお願い申し上げます。

2026年 県コミッショナー年頭所感 —スカウトの笑顔のために—

県コミッショナー 渡辺 千春

2026年の輝かしい新春を、健やかに
お迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、福島連盟の発展とスカウトたち
の成長のためにご奉仕いただいている指
導者の皆さまに、心より感謝申し上げま
す。

社会や価値観が大きく変化する中、青
少年を取り巻く環境は一層複雑さを増し
ています。そのような時代だからこそ、ボ
ーイスカウト運動が大切にしてきた「ちか
い」と「おきて」、自然体験、奉仕活動、仲
間との協働は、より重要な意味を持つも
のと考えます。福島で培われてきた
経験と知恵を生かし、スカウトが自ら考え、
行動し、社会に貢献できる力を育んでま
いり

ましょう。

指導者の皆さまにおかれましては、全
国的に課題となっている獣害(熊)等への
安全管理を最優先に、スカウト一人ひとりの
個性に寄り添った温かいご指導をお願い
いたします。皆さまの情熱と創意工夫
は、子どもたちの未来を照らす大きな光
となります。当連盟としても、現場でご活
躍される指導者の皆さまが、より活動し
やすい環境を整えるべく、全力で支援して
まいります。

「そなえよつねに」の精神を胸に、福島の
未来を担う子どもたちの笑顔のため、共
に手を携えて歩んでまいりましょう。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げ
ます。



第19回日本スカウトジャンボリー 2026年8月4日(火)～10日(月)

広島県神石高原町「神石高原ティアガルテン」

躍動

北海道・東北ブロックキャンポリー実行委員長 赤 城 圭 一
(会津若松第1団 CS 隊長)

令和7年8月8日から11日までの4日間、勇壮な岩手山の麓に位置する「岩手山青少年交流の家」において、テーマ「ステップアップ」のもと、第7回北海道・東北ブロックキャンポリー（東北会場）が開催されました。期間中は全国的に猛暑が続く中、会場周辺は比較的過ごしやすい気候に恵まれ、約400名のスカウトが集い、澆渌とした姿で躍動する大会となりました。

ボーイスカウトプログラムのテーマは「チームワーク」。班活動が十分に機能していない隊も見られる中、タープ張りや火おこし、投石器（カタパルト）製作、RCJ提供プログラム「防災運動会」、モールス信号などの対班競点プログラムを通じて、協力することの大切さを体験する機会となりました。夜の交歓会では、他県連のスカウトたちとの交流を深め、視野を広げる貴重な時間となりました。

また、ベンチャースカウトプログラムでは、

「WOOD CRAFT（森林生活術）」をテーマに、基本的なブッシュクラフトの技能を学びました。チームごとにコミュニケーションを図り、発想力を生かしながら試行錯誤を重ね、「自然物を活用してチームでソロキャンプサイトを作成する」という目標に挑戦しました。ベンチャープロジェクトの凝縮版ともいえる内容を実践することで、プログラムへの理解を深めるとともに、チーム協働によるリーダーシップとメンバーシップを養うことができました。夜にはボンファイアーが行われ、ベンチャースカウトらしい楽しいひとときを通して、東北ベンチャーの友好の輪を広げました。

野営生活や各種プログラム、交流会を通じて、他団・他県連のスカウトと親交を深め、大会ならではの体験を重ねることで、「ステップアップ」を実感できる有意義な大会となりました。この経験が、今後のスカウト活動に大いに生かされることを期待します。



・開会式



・防災運動会の様子(BS)



・ブッシュクラフト指導(VS)



・福島連盟派遣隊

第7回北海道・東北ブロックカンポリーで生まれた絆

7HTC 福島連盟実行委員長 佐藤 通晃
(郡山第3団)

これまで、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により、多くの大会が中止や実施形態の変更を余儀なくされ、スカウト同士の交流も限られてきました。そのような中、第7回北海道・東北ブロックカンポリーは、9年ぶりに岩手県「国立岩手青少年交流の家」において、東北6県のスカウトが集い、8月8日(金)から11日(月)までの3泊4日で開催されました。

本県からは「福島連盟派遣隊」として、県北・会津地区および県南・いわき地区の合同により2隊を編成し、参加しました。スカウトたちは大会参加までの限られた期間の中で、各隊とも事前訓練を通じて仲間意識を高めてから会場入りしました。キャンプ生活では、楽しみながら協力して生活する姿が随所に見られ、6つのプログラムにおいても上位の成績を収めることができました。

また、ベンチャー隊は「ブッシュクラフトに挑戦」に参加し、さらなるスキルアップに取り組むことができました。

今回の大会は、久しぶりに東北6県のスカウトが交流し、互いのキャンプスキルを高め合うとともに、ロープワークなど日頃の基礎訓練の成果を発揮する貴重な機会となりました。これもひとえに、スカウトを支えてくださった原隊のリーダーの皆さま、大会引率リーダーおよびスタッフの皆さまのおかげであり、心より感謝申し上げます。

また、大会後に開催された県技能大会では、スカウト同士が久しぶりの再会を喜び合う姿が見られ、大変うれしく感じました。今後も、7HTCで生まれたスカウト同士の絆を大切にしながら、互いにスキルアップへ挑戦していくことを期待しています。



派遣隊長という立場だから感じる事ができた、スカウト達の成長力

福島連盟派遣隊第1隊 赤坂達郎
(桑折第1団 BS 副長)

福島派遣1隊は、県北・会津地区のスカウト21名と、隊付・上班を含む指導者8名で編成された隊です。オンラインでの顔合わせや事前訓練を重ねて本番を迎えましたが、当初は班の枠を越えて仲の良いグループで行動したり、マイペースに単独行動を取ったりする場面も多く、班長たちは苦勞の連続だったことと思います。

しかし、日を追うごとに班長にはリーダーとしての自覚と責任感が芽生え、班員も自らの役割を考え、主体的に行動できるようになって

いきました。互いの個性を理解し尊重し合い、何より「楽しむこと」を忘れずに助け合った結果、班は一つに結束し、たくましく成長を遂げました。解散時に見せたスカウトたちの自信に満ちた表情や、別れを惜しむ姿は、その確かな成長の証であったと感じています。

この隊の隊長を務める中で、私自身も多くの学びを得ることができました。ご支援をいただいたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。最後に、派遣1隊の隊長としてスカウトたちにこの言葉を贈ります。

「Keep Scouting! Keep Challenging!」



『現地での集合写真（解散時）』



『スカウト・OWN・サービス』

ハヤブサ班 班長 神野晴喜（桑折第1団）

参加前は岩手に行けることがとても楽しみでした。岩手連盟の岩手クイズで岩手についてたくさん知ることができて良かったです。カタパルト作りや釣り堀で釣り体験ができて、とても楽しい大会でした。

ハヤブサ班 班員 八島陽葵（桑折第1団）

私は7HTCに参加する前、4日も家を離れたことがなかったので、すごく不安でした。でも、他のスカウトと協力して作業をしたことや、福島派遣隊の出し物でべこ太郎の着ぐるみを着たことが良い思い出になりました。

第7回北海道・東北ブロックキンポリーに参加して

福島連盟派遣隊第2隊 荻 野 隆 明
(郡山第3団 BS 隊長)

第7回北海道・東北ブロックキャンプ（7HTC）は、令和7年8月8日から11日までの4日間、岩手県滝沢市の国立岩手山青少年交流の家で開催されました。私は福島連盟派遣隊第2隊（県南・いわき）の隊長として参加しました。

派遣第2隊は、郡山・須賀川・いわきから集まったスカウト28名と指導者8名で構成され、3班体制で活動しました。大会中、ボーイ隊はタープ張りや火おこし、モールス信号などの東北プログラムに取り組み、体験プログラムにも挑戦しました。ベンチャースカウトはブッシュクラフトに取り組み、資材を活用した野営を行いました。



炊飯

記録的な猛暑の中でしたが、会場は木々に囲まれ、設備も整っており、比較的快適な環境で安全に活動することができました。

大会に先立ち、市民の森で事前訓練を行い、班編成や役割確認を行いました。本番では、スカウト一人ひとりが主体的に行動し、短期間で大きく成長する姿を見ることができました。

大会期間中に大きな事故やけががなかったのは、スカウトと指導者の皆さんの努力の賜物です。本大会で得た学びと仲間とのつながりを、今後の活動に生かしてほしいと思います。参加されたすべての皆さまに感謝し、今後の活躍を期待しています。



全員集合

派遣隊2隊 ネコ班 VS 喜多結那(郡山3団)

私はボーイスカウトに入って、今回初めてこのような大きな大会に参加しました。慣れない場所で多くの人と泊まりながら活動することに、最初は不安もありましたが、事前訓練や他県のベンチャースカウトと一緒に活動する中で、次第に打ち解けることができました。短い時間ではありましたが、多くの思い出をつくることができました。非日常的な4日間で出会った仲

間や思い出は何にも代えがたく、これまでの夏の思い出の中で最も心に残る経験です。私たちは2日間かけてソロキャンプの空間づくりに取り組みました。どのサイトも工夫が凝らされ、家では味わえない充実した空間が広がっていました。この活動を通して、互いに教え合いながら技術を高めることができ、今後の活動にも生かせる貴重な経験となりました。

福島連盟技能大会

プログラム委員会
委員長 松浦俊充

10月5日、県営いわき公園において県技能大会が開催され、県内10個団からボーイスカウトおよび奉仕ベンチャースカウト合わせて40名が参加しました。当日は好天にも恵まれ、盛大な大会となりました。

開会式の後、まず全員で手旗信号の受信を行い、その後、広大な公園内に設けられた計測・観察・結索の各ポイントを目指して、元気に出発しました。

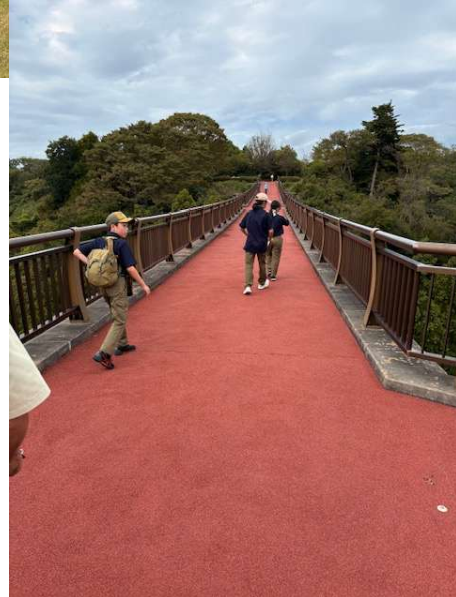
各ポイントは2級章程度のスカウト技能を課題とした内容で、担当地区がそれぞれ工夫を凝らして運営しました。計測では、公園内の大きな谷に架かる長い橋のたもとに立つ樹木の高さ、橋の上から100メートルの距離を測定しました。芝生広場では、2本の角材とブルーシート、ロープを用いて簡易タープを

設営しました。観察のポイントでは、キムスゲームを実施し、20個の品物を1分間観察した後、記憶を基に記録しました。

競技の結果、通信は須賀川A、計測は混成2、観察は須賀川A、結索は須賀川Aがそれぞれ第1位となり、総合では須賀川Aが圧倒的な強さで優勝を果たしました。

当日は少し汗ばむほどの陽気でしたが、けが人もなく、無事に大会を終えることができました。スカウト技能は、日々の地道な訓練の積み重ねによって身に付くものです。今回の反省を今後の訓練に生かし、さらなる技能向上に励んでください。

来年は会津地区担当により、猪苗代町・亀ヶ岡公園での開催を予定しています。多くの“熱きリベンジャー”の参加を期待しています。



日本連盟公式アプリ「Scout UP!」の活用について

福島連盟では、連絡・情報共有の円滑化と活動運営の効率化を目的として、日本連盟公式アプリ「Scout UP!(スカウトアップ!)」の活用を進めています。

Scout UP!は、活動予定や連絡事項の共有、活動記録の管理などを行うことができる公式アプリで、スカウト・保護者・指導者をつなぐ情報基盤として位置付けられています。連絡手段を一元化することで、情報の伝達漏

れを防ぎ、保護者の皆さまにとっても活動内容が分かりやすくなることが期待されます。導入にあたっては、各団の状況を尊重し、無理のない形での活用を基本としています。

Scout UP!は活動そのものを変えるためのものではなく、スカウト活動を支え、伝え、つなぐための補助的なツールです。

今後も福島連盟では、事業や行事での活用事例を共有しながら、安心して持続可能なスカウティング環境づくりを進めていきます。

ぜひ Scout UP! をダウンロードしてください！

ボーイスカウト公式アプリ
スカウトアップ！
Scout UP!

ボーイスカウトの**最新情報**が
通知ですぐ受け取れる！

Scout UP!で、
もっと便利に、もっと楽しく。

App Store からダウンロード
Google Play で手に入れよう

Download Now

人と地球によりよい未来を

編集後記

連絡手段や情報発信の形が大きく変化する中で、スカウト活動においても「分かりやすく伝えること」「正確に共有すること」の重要性が高まっています。本号で紹介した日本連盟公式アプリ「Scout UP!」の活用に加え、福島連盟では公式 SNS の活用についても検討を進めています。公式な情報発信の窓口を整理し、活動の様子や取り組みを適切に伝えることで、スカウト・保護者・指導者がより安心して活動に関われる環境づくりを目指してまいります。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

福島連盟 総務委員会